

令和7年6月13日(金)「教えて!!ドクターQ&A」

神奈川新聞⑧ 自然気胸

(質問) 20代男性です。気胸になりやすい原因としてどのようなものがあるのでしょうか。また気胸の症状や治療についても教えてください。

(回答) 気胸(自然気胸)とは、肺の外側の膜に小さな穴が開き、中の空気が外へ漏れて、胸壁と肺との間の空間(胸膜腔^{きょうまくくう})にたまる現象をいいます。空気が漏れ出した肺は正常よりも縮んだ状態となります。適切な処置が行われないと生命の危険に結び付くこともある重要な疾患の一つです。気胸は間質性肺炎や肺気腫など基礎的な肺の病気の有無によって、一次性の気胸(基礎的な病気がない場合)と二次性の気胸(基礎的な病気がある場合)に分類されます。

これら二種類の気胸のなかでは、基礎的な肺の病気がある二次性の気胸のほうが、より重症化する傾向があります。なかでも危険なのが、「緊張性気胸」といわれるものです。この状態では、肺に開いた小さな穴が弁のようになり、肺から漏れた空気が戻ることができず、したがって胸膜腔にたまる空気の量がどんどん増大していきます。これはやがて心臓や血管を圧迫して循環動態に大きな影響を及ぼすため、緊急に気体を抜いてやるなどの処置が必要となります。

気胸のときによくみられる症状は、胸の痛みと呼吸困難です。これは急激に始まることが多いのですが、ゆっくりと起こることもあります。聴診では呼吸音の減弱や、打診の際の響きの異常などがみられます。頻脈や低血圧は危険な緊張性気胸の徴候である場合があります。多くの場合、診断は標準的な胸部レントゲン写真によってなされます。CTによればより詳細な肺の異常を検知することが可能で、他の胸部の病気との鑑別にも用いられます。

気胸のもっとも重要な危険因子は喫煙であることが知られており、喫煙量が多くなるほど気胸にかかりやすくなることも示されています。また遺伝的な要因も関与しています。一次性の気胸のピークは15歳から34歳の間にあり、身長が高く痩せている若い男性で多く見られます。二次性の気胸のピークは55歳以上です。気胸は再発しやすい病気ですが、再発の危険率を減らす唯一の方法は禁煙することです。

緊急的な治療の目的には、緊張性気胸があればそれを即座に解除することと、呼吸困難を改善させることがあげられます。基礎疾患のある二次性の気胸は重症化する可能性がより高く、入院が指示される場合が多いです。一次性的場合には、症状の有無などによってその

後の扱いが変わってきます。病変が小さく呼吸困難もない場合には、外来に通院してもらい、経過を観察することもあります。空気の漏れが止まっていれば、胸膜腔の空気は次第に吸収されて少なくなっていくます。病変がやや大きかったり症状があったりする場合は、細いカテーテルを挿入して、注射器による吸引を試みます。それでも肺が縮んだ状態が続く場合には、より太い管を差し込み、ポンプで持続的に空気を吸引します。肺の広がりが悪かったり、再発を繰り返したりする気胸に対しては、手術により肺にあいた穴をふさぐ療法などが行われます。